

第5学年 家庭科の実践

1 単元名 「物を生かして住みやすく」(全8時間 本時3時間目)

2 単元目標 身の回りを気持ちよく整え、物や環境を大切にした生活を工夫しよう。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

【聴く・話すについての指導】

「聴くときのルール」は理解しているものの、誰かが発言しても反応がないことがあった。そこで、「似ている考えの人はいないかな。」「今どんなこと言っていたかな。」等、相手を意識して聴くことができるように声をかけてきた。今では「〇〇さんと同じで～」「その意見とは反対で～」といったような発表の仕方ができるようになってきた。

話すことに関しては、苦手意識を持っている児童もいるが、周りが話しやすい雰囲気を作ることで、徐々に発表もできるようになってきているので、引き続き励ましていきたい。また、グループ活動を取り入れることで、自分の考えを発言できる場面を多く作ってきた。話すことで自分の気持ちが伝わる体験をし、そこで自信をつけ、全体に広げられるように指導を続けたい。

【これまでの関わり合い・ひびき合い】

児童が興味を持って学習に取り組めるような導入の工夫を行うことによって、「関わり合い」「ひびき合い」につなげてきた。家庭科という、身近な経験を生かした教科の特徴を生かし、グループで交流したり全体で話し合ったりすることで、いろいろな考えがあることを一人ひとりが実感できるようにしてきた。また、人それぞれ生活環境や経験が異なることを理解し、互いに認め合えるようにしてきた。自分と友達を比べて悲観的になってしまうのではなく、各家庭に良さがあることや、それぞれの工夫があることを知ることが家庭科という教科での関わり合いであると考えている。

4 単元と指導について

【単元について】

学習指導要領

C 快適な衣服と住まい

(2) 快適な住まい方

ア 住まい方への関心、整理・整頓及び清掃の仕方と工夫

D 身近な消費生活と環境

(2) 環境に配慮した生活の工夫

ア 身近な環境との関わり、物の使い方の工夫

普段の生活の中で、掃除はとても身近にある。学校生活の中でも毎日行っており、清掃や整理・整頓が必要だということは理解している児童がほとんどである。本単元では、清掃や整理・整頓をすることで「快適な生活」を送ることができることの理解へとつなげてきた。普段は、嫌々掃除を行う児童も中にはいるだろうと考え、掃除をしないとどうなるのか、掃除が自分のために、家族のために、環境のためにどう良いのかに迫っていった。また、既習の「リサイクル」や「ごみの問題」などから、清掃が「環境」に影響を与えていることに目をむけ、日常生活をふりかえる場面とした。以前の学習で「買い物」について考える機会があったので、物の使い方や買い方にも着目し、これからの生活の中で生かして行ってほしい。

【指導について】

<切実な問題>

5年生になって始まった家庭科は、多くの児童が好きな教科のひとつになっている。初めて経験する調理実習や、裁縫にはみんなが意欲的で、「早くやりたい。」「次は何やるのか。」と言っていた。そのため、実習に向けた話し合い活動では積極的に意見を出し、より良くするため、協力して行うにはどうしたら良いのかを考えることができる児童が多かった。しかし、自分の考えに固執してしまい、人の意見を聞かなかったり、自分のやりたいことだけを優先してしまったりすることもある。本単元の実習は「清掃」である。言葉だけ聞いたら嫌がる児童もいるだろう。実習に向けた話し合いでは、友達の意見を参考に自分の考えを持てるようにし、全員が一度は話ができるようグループの中での交流タイムを設けてきた。

家庭科としての教科は全員一斉スタートであるが、生活経験にはかなりの差がある。今までほとんど家庭の手伝いをやってこず、なかなか家庭でのイメージを持てない子もいる。「清掃」は学校で毎日やっていることなので、共通の土台としては適していると考えた。まず、一番身近な教室の汚れを徹底的に調べることから始め、なぜ汚れるのか、なぜきれいにするのか、きれいにするには、またそれを保つにはどうしたら良いのかを考えることで、「教室をピカピカにしたい」との思いがうまれる。その活動から、毎日の清掃活動や家庭でも「やってみたい」という切実な思いをもつことができると考えた。

<ひびき合いについて>

普段の掃除だけでは取りきれないごみや汚れに気づく。そして、それらをきれいにするためにはどんな方法があるのかを考える。年末に大掃除を手伝った児童からは、いろいろな掃除の工夫が出てくると考えられた。もっといろいろなアイデアを知りたいと思い、家で見聞きしたことを出し合うところから本時が始まる。洗剤や市販されている掃除道具を使う方法が多いが、中には使い古しのハブラシやゴミになってしまうものを利用して掃除を行う方法を調べてきた児童もいる。どちらも良い掃除方法ではあるが、環境のことを考えたときにより良い方法はどれなのか、自分で考え、友達の意見を聞いて深めていく姿をひびきあいの姿としたいと考えた。

また、自分が知らなかった方法を聞いたら、「やってみたい」「試してみたい」という思いになるだろうと考えた。その後、自分が掃除しようと決めた場所に合わせた掃除の仕方を考える。ごみの種類や量、汚れの度合いに合わせて、適切な方法を話し合うときに、先ほどの考えが生かされてくる。そこではお互いの意見を認め合い、より良くしていく工夫を考えられるようにした。中には何も考えが思いつかない児童もいると思われたので、実物を見せ、「それいいな」「これならできそう」という、自分の思いにつなげられるようにした。全員が「クラスをきれいにしたい」という目標を持って取り組めるような話し合いをめざしたいと考えた。

単元目標 身の回りを気持ちよく整え、物や環境を大切に生活工夫しよう。

- ・身の回りの整理・整頓や掃除の学習を通して、環境に配慮して気持ちよく生活するための住まい方に関心を持つ。
- ・環境に配慮して快適に住まうための整理・整頓や掃除の仕方を工夫することができる。
- ・整理・整頓や汚れに応じた掃除を行うことができる。
- ・整理・整頓や汚れに応じた掃除の仕方を理解している。

年末に家の大掃除はしましたか。

- ・自分の部屋は自分でやったよ。
- ・お風呂をそうじしたよ。
- ・ごみがたくさん出たよ
- ・教室も冬休み前にそうじしたよね。
- ・でもけっこう汚れているよ。

◎身の回りの物や生活の場を見つめよう①

教室の汚れ探しをしてみよう。①② (教室・オープンスペース・ろうか・水道)

- ・きたないなあ。
- ・毎日掃除しているのにほこりがでるね。なんでだろう。
- ・窓のところには砂がある。
- ・床には髪の毛がある。
- ・すみにほこりがある。
- ・いろいろな種類のごみがあるね。
- ・家と学校では汚れ方が違うよ。
- ・隅々まで調べてみよう。
- ・すみはほこりがたまりやすいね。
- ・汚れたままでは嫌だな。
- ・いつもの掃除の仕方ではきれいににならないね。
- ・きれいにしたいな。
- どうやって掃除すれば良い？

ワークシートにセロハンテープで汚れを採取。
個人でふりかえりをする。

◎身の回りをきれいにしよう②～⑥

掃除の仕方を考えよう。

・他の方法もありそうだよ。

- ・まずはいって、雑巾がけをしたらどうかな。
 - ・オープンスペースはコロコロがいいよ。
 - ・窓は新聞紙が使えるね。
 - ・すみのごみをかき出せないかな。
 - ・細かいところはハブブラシがいいかも。
- 掃除のグループを決める。床、窓・ロッカー、オープンスペース、水道、他

家庭での実践方法を聞いてくる。

ピカピカ大作戦を計画しよう。③(本時)

- ・割り箸にストッキングをまくと汚れが落ちるよ。
- ・重曹をつかっていたよ。
- ・お酢が良さらしい。
- ・いらない布を雑巾にしていたよ。
- ・床・・・砂ほこりや、消しゴムのかすが多いから、はいてから雑巾がけをしよう。
上履きのあとは水ぶきで落とせるかな。
- ・水道・・・すみや、つなぎめが汚れているから、ハブブラシを使ってやろう。
洗剤があったほうが良いかな。
- なるべく使わないほうが環境には良いね。
- ・窓・・・砂ほこりが多いから小さいほうきではきだせないかな。
窓の汚れは新聞紙だね。
- ・用意する物はなんだろう。
- ・持ってこよう。
- ・作ってみよう。

2時間で行うこと、
普段の掃除とは違うことを確認する。

全員がきれいになった喜び
や達成感を実感できるように、
ふりかえりをする。

ピカピカ大作戦を実践してみよう。④⑤

- ・たくさんのごみがでたよ。
- ・汚れが落ちて気持ちよかった。
- ・きれいが続くと良いね。
- ・ごみを減らせないかな。
- ・そうじっていいね。

ごみについて考えよう。⑥

- ・同じ物を買わないようにしましょう。
- ・物を大切に使う。
- ・しっかり分別しよう。
- お道具箱をみてみよう。
- ・ぐちゃぐちゃだよ

お道具箱の整理・整頓をしてみよう。⑦

- ・いらないものがたくさん出てきたよ。
- ・整理してあると気持ちが良いね。
- ・いつもこうだといいな。
- ・使いやすくなったよ。
- ・〇〇ちゃんのやり方がいね。

家でやるための実践計画を立ててみよう。⑧

- ・使えるものは大事にしくちやね。
- ・必要のない物を買わないようにしましょう。
- ・家もいつもきれいにしておきたいな。
- ・お買い物名人で学習したみたいに、物の買い方も考えよう。

◎ものを生かして快適に生活しよう⑧

資源ごみはリサイクル
できることを確認
(4年社会で既習)

6 本時について

6 本時について (1) 本時目標 いろいろな掃除の仕方を知り、場所にあった適切な掃除の仕方を考える。 (2) 本時展開	
学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
ピカピカ大作戦を計画しよう ○掃除方法 環境にやさしい ・まどは新聞紙 ・水あかはみかんの皮 ・古いハブラシで細かいところ ・大根の上で水道場 ・油にポイントカード ・水道場「重曹」「クエン酸」 ・カビにはお酢 道具 ・高いところはクイックルワイパー ・コロコロ ・ガラスクリーナー ・油性ペンには除光液 ・洗剤→ラップ ・メラニスポンジ 全体 ・マスク ・窓を開ける ・上から下へ ・そうじき ・ぞうきん ・すきま ・こまめ ・ほうき ・細かいところ	○前時の確認と、めあての設定 ○自分で考えたことや、家で調べてきたことを発表する。 ○ある程度分類しながら板書をする。 ○自分の知らない方法があることに気づく。 ○「強い洗剤」のような環境を考えたときには好ましくない方法が出てきたときには、児童にかえし、どうするべきか考えるきっかけとする。 ○実際に体験できる場を設けて、実習に向けた意欲が増すようにする。
○掃除のグループに分かれ、計画表を記入していく 水道場 窓側 黒板側 ロッカー オープンスペース&ろうか ○場所ごとにどんな方法で掃除するのかを発表する。	○たくさんの方から、自分たちに適している方法を探し、選ぶ。 ◇汚れの種類や汚れ方に応じた掃除の仕方を理解している。 ◇環境に配慮した物の使い方や生かし方について理解している。 【家庭生活についての知識・理解】

7 実践を終えて

(1) 本時に至るまでの経過と本時の様子

単元の初めの日は清掃のない日であった。自分の机の周りにゴミが落ちていることをきっかけに、教室やオープンスペースの汚れ探しをしたが、ほこりや汚れに対しては「汚い」「さわりたくない」「関わりたくない」という思いをもつ児童が多くいた。そこで、逆に「このままで良いのか」という問いかけをすると「嫌だ」「きれいにしたい」と返ってきた。そこから、「自分たちでなんとかしよう」という思いが徐々にわいてきた。方法はいろいろあるが、「環境」に重点を置いて考えることにした。家で見たり聞いたりしたことを出し合うと、こちらが想像していた以上にたくさんのアイデアがあり、児童の「試してみたい」という気持ちが大きくなっていった。

(2) 単元を通しての成果と課題

<成果>

全員が「クラスをきれいにしたい」という目標に向かって取り組み、掃除をしてきれいになる喜びや達成感を味わうことができた。また、教室を掃除することで仲間や学級への愛着がさらに持てたことを感じる。

家庭での実践方法を出し合うと、「そんな方法があったんだ。」「やってみたい。」との思いが強くなった。みかんの皮やジャガイモの皮が掃除に使えることに驚いた児童は、洗剤を使わなくても掃除ができることを実習を通して学習することができた。給食にでたみかんの皮を事前にとっておき、掃除に利用した。実習のふりかえりには「毎日生活しているのによごれに気づかなかった。」「ごみがたまりやすい場所がわかった。」「みんなと協力したら掃除が楽しかった。」とあり、これからの学校生活や家庭での日々の生活に「生かしていきたい」という思いを持つことができた。資源ごみの分別や3Rを実践していきたいといった考えをもてるようになった児童もいる。実習中にいろいろな方法を試す中ではうまくいかないこともあったが、今後、家庭や社会の中での実践につながると考える。

<課題>

児童からでた清掃方法は多岐にわたったが、教師の感覚で分類をしてしまった。もう少し児童の目線ととらえ、児童からでた言葉を使って分類ができたらよかったと思う。実践の時間は限られており、その中でどこまでやるのか、目的は何かを全体で統一するのが難しく、場所によっては全然終わらない所もあった。日々の清掃活動でも指導を続け、気持ちよく生活するための方法をこれからも一緒に考えていきたい。